

研究課題名	B型慢性肝炎または肝硬変に対する抗ウイルス療法の治療効果の臨床研究
研究責任者名	広島大学自然科学研究支援開発センター 助教 柘植雅貴
研究期間	2016年8月(倫理委員会承認後)～2020年3月
対象者	広島大学病院および川上消化器内科クリニックに通院中のB型慢性肝疾患患者のうち、核酸アナログ製剤やインターフェロン製剤を用いた抗ウイルス療法を行っている患者さんで、本研究に同意の得られた患者さん。
意義・目的	<p>B型慢性肝炎に対して、エンテカビル、ラミブジン、アデフォビル、テノホビルを用いた核酸アナログ製剤やペグインターフェロン等のインターフェロン製剤による抗ウイルス療法が行なわれています。この治療法は、肝臓内で起こるB型肝炎ウイルスの増殖を抑制することによって、肝炎を鎮静化し、治療を長期間継続することで、肝臓の線維化の程度が改善したり、肝臓癌の発生を抑制したりする効果が期待できる訳です。</p> <p>さらに、B型慢性肝炎患者さんの中にはわずかではありますが、長期間の経過の中で、HBs抗体(ウイルスを中和する抗体)が陽性となり、ほぼ完全に肝炎が鎮静化してしまう患者さんがおられます。これは、HBs抗体が陽性となることにより、生体内の免疫反応がB型肝炎ウイルスを受け入れている状態から、ウイルスを排除する方向へと転換し、ウイルス増殖が抑えられ、肝炎が鎮静化するものと考えられます。</p> <p>しかしながら、このような肝臓癌発生を抑制したり、HBs抗体が出現させたりするメカニズムについては、不明です。そこで、本研究では、治療中の血液を用いて、血液中の様々な蛋白質の発現量の変化を解析し、肝臓癌発生やHBs抗体出現に関与する要因を探索することが目的に、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、保存血清および診療録(カルテ)情報を調査して行います。保存血清は、抗ウイルス療法開始前、治療3か月後、6か月後、12か月後、以後1年毎～最終診察時のものを用いて、血中サイトカイン濃度を測定します。</p> <p>カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査(血液一般検査、血液生化学検査、HBV関連マーカー)、腹部超音波検査、肝組織所見です。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	<p>川上消化器内科クリニック 本学に情報を集め解析します。</p>
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料・試料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

TEL : 082-257-1728

広島大学自然科学研究支援開発センター 助教 柘植雅貴

〒730-0013 広島市中区八丁堀 4-24

TEL : 082-211-2323

川上消化器内科クリニック 院長 川上 広育

研究機関：広島大学